

文学部通信教育課程

I 2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

文学部通信教育課程 3 学科が各々、それなりの工夫をしながら通信教育課程での教育に取り組んでいることは、伝わってくる。そうした中、魅力的な学科として広報用リーフレットやホームページなどを活用して、学外に発信しようとしている日本文学科の試みはとりわけ評価できるところである。通信教育課程全体としての減少傾向に対して、それぞれの特色を生かした通信教育のあり方について、さらなる検討が望まれる。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

2015 年度大学評価委員会の評価結果は、おおむね良好であった。文学部通信教育課程の質を今後も保つのみならず、さらに改善・向上すべき点について継続して審議し、取り組む体制を取る。文学部通信教育課程関連 3 学科（日本文学科・史学科・地理学科）は、各通教主任を通じて、積極的に意見交換を行い、教育内容のさらなる拡充・発展を検討している。

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。 はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

・通信教育課程関連 3 学科（日本文学科・史学科・地理学科）それぞれに通教学科主任を置き、全学の通信教育課程の審議機関である通教学務委員会の構成員としている。通教学科主任は、所属学科において通信教育課程の事務および教学に関わる連絡調整を行う体制となっている。詳細については、各学科のシートを参照。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・各学科のシートを参照。

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 はい いいえ

（～400 字程度まで）※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。文学部通信教育課程では、学位授与方針、カリキュラムを前提とした教員像、教員組織の編成方針を明らかにしている。関連 3 学科それぞれが通教主任を配置し、通教学務委員会および各学科会議の場で話し合い、教育課程に相応しい教員組織の整備に努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・各学科のシートを参照。

2015 年度専任教員数一覧

（2015 年 5 月 1 日現在）

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計
日本文	10	2	0	1	13
史	5	2	2	1	10
地理	6	2	1	1	10
学部計	21	6	3	3	33

※学校基本調査の教員数を記載。実際の所属教員数とは一致しない場合あり。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし（日・文・史学・地理）	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし (日文・史学・地理)

【この基準の大学評価】

文学部通信教育課程関連 3 学科は、各学科で通教学科主任を置き、各学科と文学部執行部との連絡・調整にあっており、特段の問題はないものと評価される。通教学科主任は、学部の教学改革委員会に入っており、月 1 回は全学の通信教育学務委員会を開催し連絡調整を行っているのは適切である。

各学科は、カリキュラムにふさわしい教員組織となっており、カリキュラムと教員組織との整合性に努めていることは評価できる。

ただし、通信教育という性質上、各学科の構成員、他学科・学部全体との調整の役割が今後一層重要視されると思われるので、今後さらなる努力が期待される。

2 教育課程・教育内容

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

文学部通信教育課程では学部の理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な教育課程の編成・実施方針 (カリキュラムポリシー) を定めている。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。 A B C

(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。

文学部通信教育課程 3 学科では、それぞれに教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を年次配列に配慮しつつ、一般性と専門性の積み重ねをはかるべく、適切に開設している。よって、各学科の教育課程は体系的に編成されている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・各学科のシートを参照。

2.2 学生の能力育成のための教育課程・教育内容か。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。 A B C

(～400 字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

初年次教育から専門的教育へと順次段階的に知識と理解を深めつつ、自ら問題を発見して、自己の研究課題を見出すとともに、それらの方法論を学ぶ。その過程において各教員は的確に学生の能力の向上を図り、その集大成としての卒業論文作成の指導に当たっている。文学部の通信教育課程 3 学科すべてが、学生の能力育成のための教育課程・教育内容を適切に提供している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・各学科のシートを参照。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし (日文・史学・地理)	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・各学科のシートを参照。

【この基準の大学評価】

文学部通信教育課程のカリキュラムの順次性・体系性については、特段の問題はないものと評価される。日本文学科は

2013年度から、文学、言語、芸能文化の3コース制を導入し、メディアスクーリングの拡充にも力をいれている。通学課程の夜間授業時間帯授業を通教のスクーリング科目として乗り入れ認定したことは評価できる。

各学科とも、学科会議で検討され、初年次教育から専門教育へと、そして最終的には卒業論文が各学科の教育の集大成となっている。学生の能力育成のための教育課程・教育内容に対する配慮が評価されるが、通教生と通学生とは違うと思われるので、通教生のニーズに合わせた教育内容というものを検討し、今後実施していくことが望まれる。

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・各学科のシートを参照。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科のシートを参照。	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	
(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 文学部通信教育課程3学科が、学習ガイダンスやスクーリングにおいて、学生の学習指導を適切に行っている。各学科が独自の工夫を凝らし、学生の質問にも答える体制を整えている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科のシートを参照。	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入(取組例:執行部(〇〇委員会)による全シラバスチェック等)。 ・各学科のシートを参照。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科のシートを参照。	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入(取組例:後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。 ・各学科のシートを参照。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科のシートを参照。	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・各学科のシートを参照。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし(日文・史学・地理)	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部(学科)内基準を設けて実施していますか。	
(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 事務課から通教主任を介して配布された関係資料を、3学科それぞれが、通信教育全体の基準に則して、学科会議で精査したうえで、単位認定を承認している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科のシートを参照。	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし〈日文・史学・地理〉	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・各学科のシートを参照。

【この基準の大学評価】

<p>文学部通信教育課程の学生の学習指導については、各学科が独自の工夫を凝らし、学生の質問にも答える体制を整えている点、そして、『学習のしおり』『通信学習シラバス・設題総覧』『法政通信』に加えて、通信教育部の行事である学修ガイダンスやスクーリングを、学習指導に活用しているのは評価できる。</p> <p>授業がシラバスに沿って行われているかの検証については、地理学科のように、スクーリングの際に履修者に対してアンケートを実施している学科もあり、その効果を調べている。その方法が効果的ならば他学科も実施することを期待したい。なお、通信教育の独自性を踏まえて、シラバスのあり方、そしてシラバスに従った授業を行っているか否かを確認する方法を、引き続き検討することが期待される。</p> <p>各学科において、成績評価と単位認定の適切性は担保されていると認められる。</p>

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】	
文学部通信教育課程では学部理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定めている。	
4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
①学生の学習成果を測定していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入（習熟度達成テストや各種アンケートの活用状況等）。</p> <p>・学生の学習成果は、最終的には卒業論文の内容によって、測定している。優秀な卒論は学会誌への掲載を卒論指導教員が勧め、各学科の教員の審査を経た上で、掲載されている点は、一定の成果をあげたものと言えよう。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・各学科のシートを参照。</p>	
②成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・各学科のシートを参照。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・各学科のシートを参照。</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし〈日文・史学・地理〉	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・各学科のシートを参照。

【この基準の大学評価】

文学部通信教育課程の卒業論文における成果の評価については、学部全体として、学習成果が測定されているものと高

く評価される。日本文学科では、優秀な卒業論文は『日本文学誌要』に掲載可能となっており、学生のやる気を上げることにもつながり、評価できる。個別の科目については、まずは成績分布を客観的に把握した上で、学習成果の測定につなげていくための方策を検討することが期待される。近時の学習方法である、メディア・スクーリングについても、その学習成果につき、独自の方法が検討されることが望ましい。

成績分布や進級などの状況は、通信教育部事務部と密接な連絡を取り合い、その状況を点検・確認し、把握されていることは適切である。しかし、通信教育課程と通学課程は異なるということは理解できるが、留級者数が多いことに対して、何か対策を検討することを期待したい。

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】

文学部通信教育課程では学部の理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）を定めている。

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

文学部通信教育課程3学科は、定員の超過・未充足について、入学者数および在籍者数が減少傾向にあることを認識・共有しており、カリキュラム改革や広報活動をするなど、各学科それぞれ努力をしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・各学科のシートを参照。

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。

A B C

【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。

・各学科のシートを参照。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・各学科のシートを参照。

(2) 特記事項（任意項目）

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし（日文・史学・地理）	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし（日文・史学・地理）

【この基準の大学評価】

文学部通信教育課程の定員の超過・未充足については、各学科とも認識・共有をしており、定員の未充足に対し、学部・学科として対応の努力は評価できるものの、今後も継続的な努力を期待したい。学生募集および入学者選抜の結果についての検証はなされており適切である。特に史学科では、教職員一体となって広報活動に努めており、さまざまなアピールを行っているのは評価できる。他学科にも言えることだが、入学希望者や新入生からの意見を聞いて、その分析の上に対策を考えることも期待したい。

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

・各学科のシートを参照。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・各学科のシートを参照。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし〈日文・史学・地理〉	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし〈日文・史学・地理〉

【この基準の大学評価】

文学部通信教育課程各学科とも、卒業生、卒業保留者、留年者、休・退学者については、事務課からの報告を受けて、会議で承認が行われている。通信教育課程としては難しいと思うが、卒業保留者、留年者、休・退学者の人数が少ない場合は数の把握だけでよいかもしれないが、それらが多いとなると、調査・分析、そして対策を考えて、学生に寄り添った対処に改善することが望まれる。

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証に関する活動は適切に行われていますか。

はい いいえ

【2015年度の質保証に関する活動概要】※箇条書きで記入。

・各学科のシートを参照。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし〈日文・史学・地理〉	

【この基準の大学評価】

文学部通信教育課程における質保証に関する活動は、学部の質保証委員会、そして通信教育部学務委員会が主に行っている。通信教育課程としては、各学科の質保証委員会の委員の中からそれぞれ 1 名を選出し、質保証の活動を行っており適切である。

【大学評価総評】

文学部通信教育課程における 2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況として、通信教育課程全体としての学生の減少傾向に対して、それぞれの学科の特色を生かした通信教育のあり方と、外部発信の方法を検討していることは評価できる。外部発信の方法については、評価されている日本文学科の対応を他の学科も試みることを期待したい。

さらに、大学側からの発信ばかりではなく、学生からの意見を幅広く集めることも、減少傾向を食い止める一助になる

ものと思われる。通信教育という性質上、難しいところもあるとは思うが、学生、特に新入生へのアンケートなどを何回か行い、学生の考えている事を今以上に把握することも必要ではないかと思われる。

今後とも、カリキュラムや科目名なども検討し、学生のニーズに合わせた改革を行い、通信教育課程として、いろいろな方策についてより一層の検討が期待される。

文学部日本文学科通信教育課程

I 2015年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2015年度大学評価結果総評】

文学部通信教育課程3学科が各々、それなりの工夫をしながら通信教育課程での教育に取り組んでいることは、伝わってくる。そうした中、魅力的な学科として広報用リーフレットやホームページなどを活用して、学外に発信しようとしている日本文学科の試みはとりわけ評価できるところである。通信教育課程全体としての減少傾向に対して、それぞれの特色を生かした通信教育のあり方について、さらなる検討が望まれる。

【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

通信教育課程全体としての学生減少傾向という状況に対して、日本文学科は広報用リーフレットやホームページを活用することで、学外への発信を継続的に行っている。引き続き、学科会議の場で、通信教育課程に関する議論を重ね、文学・言語・芸能文化の3コースの一層の拡充・発展を目指している。

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・毎年度、学科会議の場で、教科担当者・添削担当者・試験担当者・スクーリング担当者等を決め、最終的に学部教授会の承認を経て、必要な役割分担や責任の所在を明確にしている。
- ・通読判定委員（入学志望理由書を読み入学判定を下す委員）・卒論一般指導教員・学習ガイダンス担当者等は、学科会議の場で決め、教員それぞれの役割分担、責任の所在を明確にしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部学則、通信教育学務委員会規程

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

（～400字程度まで）※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

2013年度から、それ以前の文学・言語の分野を中心にしたカリキュラムに芸能文化の分野を新たに加えたカリキュラムになった。これは在籍教員の研究分野を十分に考慮した上での変更ということもあり、新カリキュラム運営においても相応しい教員組織となっている。さらに、2014年度0.5枠増の人事（文学コース担当）を実現でき、指導分野を拡充させた。そして、文学12名・言語2名・芸能文化2名の専任教員に加え、高い専門性を有する兼任教員の協力を得ることで、適切な体制でもって教育にあたっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『学習のしおり』、『通信学習シラバス・設題総覧』

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

日本文学科の教育課程は、他学部・他学科と共通の基礎科目と専門科目によって構成され、とくに日本文学科独自の専門科目においてその専門性を広く把握すると同時に深く追求するため、文学・言語・芸能文化の3コース制を採用する(2013年度より)。

まず文学コースでは、古代から近現代までの歴史的な見通しのなかで日本文学について学び、さらに中国文学・沖縄文学なども視野に入れた上で、特定の時代や特定の領域の文学を専門的に研究することを目指す。次に言語コースでは、古典語の用法から現代日本語の変容までを含む広い領域で日本語について学び、さらに方言・外国語と日本語の関係・理論言語学などの多角的な視点も理解した上で、特定の主題を通じて言語の本質を専門的に考察することを追求する。また芸能文化コースでは、古代から現代までの芸能とそれらを育んできた歴史・宗教・文化について学び、日本の芸能文化の形成と展開を理解した上で、音楽・演劇や特定領域の日本文化に関して専門的に考察することを目指す。

それぞれのコースは必修科目と選択科目の組み合わせによって関係づけられており、学生は2・3年次以降いずれかのコースに籍を置いて学習を進める。4年次にはその研鑽の成果を発揮する卒業論文に取り組む。なお卒業論文は、日本文学科の教育課程における集大成と位置づけられる。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。 A B C

(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。
2013年度から文学・言語・芸能文化の3コース制に再編成し、通学課程カリキュラムとの整合性を図りつつ体系的・専門的に学習できるよう整備したカリキュラムを実施している。「日本文芸学概論」「日本言語学概論」「日本文芸史I」を軸にして、各コースの分野の基礎となる2科目を加えた5科目を必修として、専門教育を受けるための基礎作りとしている。さらに、専門性の高い時代別・分野別の「日本文芸研究特講」16科目を選択必修科目、「中国文芸史」「日本美術史」等、周辺領域の分野を選択科目として、4年次の卒業論文執筆に向けて、必要な知識・読解力・思考力を身につけられるよう考慮した科目が設けられている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・『学習のしおり』、『通信学習シラバス・設題総覧』

2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。 A B C

(～400字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。
1年次から受講できる科目として「論文作成基礎講座I」と「論文作成基礎講座II」(この2科目はスクーリング科目)を設置し、レポート執筆作法や文献検索法について、基礎的なレベルから学べるようにし、「自らの専門領域の基本文献を正確に把握できる読解力」「研究の成果を的確に伝えられる日本語の表現力」(ディプロマ・ポリシー)を実習形式で養成できる。文学・言語・芸能文化に関する専門性の高い科目については、時代と分野のバランスを考慮しつつ設置し、周辺領域科目についても「魅力ある研究対象を発見し、自ら研究する能力」(ディプロマ・ポリシー)の一助となるよう設置している。2013年度からの新カリキュラムは学科のカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーに則り、再編成したもので、学生の能力育成に適した教育内容となっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・『学習のしおり』

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・2013 年度に行ったカリキュラムの再編成に問題点がないか、見直しを行う。
--

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

3 教育方法

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育部ホームページ・『学習のしおり』・『通信学習シラバス・設題総覧』・『法政通信』を通じて、履修指導を行っている。 ・学科独自の対応としては、日本文学科公式ブログに「新カリキュラム」についてというコーナーを設置して、2013 年度から始まった新カリキュラムの意義や履修上の注意点等に関する説明を動画配信している。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育部ホームページ・『学習のしおり』・『通信学習シラバス・設題総覧』・『法政通信』・文学部日本文学科公式サイト http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/ 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>学習指導については、『学習のしおり』・『通信学習シラバス・設題総覧』・『日本文学科のしおり』により行っている。それだけで不十分な点は、「論文作成基礎講座Ⅰ」と「論文作成基礎講座Ⅱ」の2科目をスクーリング科目として開講することで、対応している。対面形式授業のスクーリングは、7～8月と1月中旬～下旬に行う集中形式のもの、春学期と秋学期の夜間時間帯に開講されるもの、それから地方都市で年に2乃至3回開講されるものがある。また、地方在住者や社会人学生の利便のために、インターネット上で受講可能なメディア・スクーリングを開講し、近年その拡充に力を入れている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育部ホームページ・『学習のしおり』 	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】※箇条書きで記入(取組例:執行部(〇〇委員会)による全シラバスチェック等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで通信教育部のシラバスは、スクーリング科目(『法政通信』に掲載される)のみであったが、2013 年度から通信科目についても独自のシラバスを作成した。 ・シラバスは、通信科目の特質に合わせた形式で、「学習の到達目標」「科目の概要」「成績評価基準」「テキスト・参考文献」「学習指導・注意点」が明記され、学科会議等で検証を行っている。 ・各教員が実際の授業内容とシラバスとをチェックすることに加え、2015 年度からは第三者の教員がシラバスチェックを行い、問題点がある場合には、担当教員に伝えることで、改善を図っている。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】※箇条書きで記入(取組例:後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014 年度にスクーリングの一部の科目について、授業改善アンケートを実施している。 ・2015 年度からは全スクーリング科目について、授業改善アンケートを実施することになった。 	

<p>・授業改善アンケートの回答結果から、シラバスの内容との兼ね合いを検証している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C</p>
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・通信科目のテキスト学習は、添削指導と単位修得試験により、各教員がシラバスに従って、適切に成績評価と単位認定を行っており、専任教員が担当教員と連携して適切性を確認している。</p> <p>・スクーリング授業は、出席状況（春・秋スクーリングは二分の一以上、夏・冬スクーリングは三分の二以上の出席がないと単位の認定はなされない決まり）と筆記試験またはレポートの両面から、各教員がシラバスに従って、適切に成績評価と単位認定を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p>（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。</p> <p>他大学における既修得単位の認定については、通信教育部は編入学や学士入学も多いということもあり、これまで適切な基準に従って、学科会議・学部教授会による厳正な単位の認定と承認の手続きを行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<p>・シラバスに従った授業を行っているか否かを確認する方法を検討する。</p>
--

【この基準の大学評価】

<p>※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照</p>

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>【学位授与方針】</p> <p>日本文学科は、「日本の文学・言語・芸能の歴史と現状を専門的に学び」「自らの見解を自らの言葉で的確に発信できる人材を育成する」という教育目標を実現することを目指し、必要となる教育課程を編成する。その課程を修了した者に学士の学位が授与されるためには、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の文学・言語・芸能・文化の歴史と現状についての基本的な知識 2. 自らの専門領域の基本文献を正確に把握することのできる読解力 3. 魅力ある研究対象を発見し、自らの力で調査・考究する思考力 4. 研究の成果を的確に伝えられる日本語の表現力 <p>以上のような資質・能力を身につけていることが求められる。</p>	
<p>4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。</p>	
<p>①学生の学習成果を測定していますか。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C</p>
<p>（～400字程度まで）※取り組みの概要を記入（習熟度達成テストや各種アンケートの活用状況等）。</p>	

学習成果は、最終的には卒業論文の内容（卒論面接の内容も含む）・評価・提出者数によって測定している。日本文学科では、優秀な卒業論文は法政大学国文学会の機関誌『日本文学誌要』に、指導教員の推薦により掲載される。近年では2014年度に通教生の卒業論文をまとめ直したものが、一本掲載されたが、これは卒業論文の全体的なレベルアップの現れと考えられる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学国文学会の機関誌『日本文学誌要』

②成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

・進級などの状況については、事務課からの報告を受け、9月と年度末の学科会議で確認している。
 ・成績分布の実態に関しては、これまで十分に把握できているとは言えない。試験放棄者数については、通信科目やスクーリング科目により、登録方法・学習方法・基準等が異なり、試験放棄の定義づけも、単に登録と受験の差というだけにとどまらない難しい面があるため、現在までのところ、状況の把握は困難となっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・2016年度から、成績分布の状況を把握するべく、事務課の協力を得つつ、改善する。

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】

日本文学科は、その目的に基づいた教育目標を達成するため、日本の文学・言語・芸能について関心をもつ者を広く受け入れる。ただし、通信教育課程においては、自宅で日本文学の専門的な学習ができるだけの国語の学力が不可欠である。その適性・能力を見極めるために、書類審査を中心とする適切な入学選考を行う。

また、通信教育課程が情報化の進む21世紀社会に対応し、生涯学習教育の担い手となっていることを考慮し、自宅学習を継続できる意志と主体的に学ぼうとする意欲も重要な選考基準とする。

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

定員の充足のあり方に関しては通信教育課程全体に関わる大きな問題である。日本文学科でも定員の未充足については、認識しており、問題点を明確化し、改革を進め、2013年度から新カリキュラム（文学・言語・芸能文化のコース制・通学課程夜間時間帯授業を通信教育部生へ開放・スクーリングの拡充）を実施し、努力している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。

A B C

【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。

- ・学生募集および入学者選抜の結果については、学科会議で定期的に検証している。
- ・志望理由書の様式（設問や字数等）についても、学科会議で検討している。
- ・2013年度から設けた課題図書リストの内容に関しても、随時検討を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 特記事項（任意項目）

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

6 学生支援**【2016年5月時点の点検・評価】****(1) 点検・評価項目における現状****6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。**

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。

- ・卒業・卒業保留・留年者および休・退学者については、事務課からの報告を受け、学科会議の議を経て、最終的には教授会で報告し、承認されている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・文学部教授会資料

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

7 内部質保証**【2016年5月時点の点検・評価】****(1) 点検・評価項目における現状**

7.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証に関する活動は適切に行われていますか。

はい いいえ

【2015年度の質保証に関する活動概要】※箇条書きで記入。

- ・質保証に関する活動は、毎月開催される学科会議で、適切に行われている。
- ・学科での審議結果については、通信教育部学務委員会で、通信教育課程の主任が報告している。
- ・全体的な質保証は、通信教育部学務委員会で検討されている。
- ・学部に設置された質保証委員会の委員を学科から1名選出し、学部および大学の内部質保証に協力している。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

【大学評価総評】

※文学部通信教育課程全体の大学評価総評を参照

文学部史学科通信教育課程

I 2015年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015年度大学評価結果総評】

文学部通信教育課程3学科が各々、それなりの工夫をしながら通信教育課程での教育に取り組んでいることは、伝わってくる。そうした中、魅力的な学科として広報用リーフレットやホームページなどを活用して、学外に発信しようとしている日本文学科の試みはとりわけ評価できるところである。通信教育課程全体としての減少傾向に対して、それぞれの特色を生かした通信教育のあり方について、さらなる検討が望まれる。

【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

- ・史学科独自の広報用リーフレットやホームページを有してはいない。しかし、入学説明会における教員による講演や模擬授業を通じた史学科の魅力のアピールと参加者とのコミュニケーション、広報媒体を通して生涯学習の意義、在宅あるいは学内での自習の利便性のアピール、さらに卒業生のメッセージのアピールなどの施策を取っている。
- ・毎月定例の学科会議において、通信教育部全体の学生数の長期減少傾向に関する情報を共有し、その対策について審議することとしている。

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・文学部として、通信教育部を有する日本文学科、史学科、地理学科の3学科を通教関連3学科と総称し、その各学科の通信教育課程主任（以下、通教主任と略す）は、通信教育部が主催する毎月定例の学務委員会の構成員として通信教育部全体に関わる事項を審議し、所属する各学科において、および文学部執行部との連絡・調整にあたることとなっている。さらに、文学部執行部が主催する通教関連学科連絡会議、学科主任会議、さらに拡大教学改革委員会における通学課程との共通議題にいずれも出席し、審議する一員となっており、また所属学科との連絡・調整を担当している。
- ・文学部教授会においては、通教関連議題について、上記3学科の通教主任の代表1名が通年で、発議・説明・報告等を

担当している。代表1名は、1年ごとの担当学科交代制による。さらに、3学科それぞれの発議、説明、報告等については、各通教主任がこれを担当している。

- ・上記3学科においては、各通教主任が、通信教育部事務部と所属学科あるいは他学科および学部執行部との連絡・調整を担当している。
- ・史学科における学科会議は、全専任教員による通学課程・通信教育課程・大学院人文科学研究科史学専攻に関する議題を審議すると共に、史学科としての決定を行う機関でもあり、原則として、毎月2回開催される。そして、通信教育課程に関する議題の発議・説明は、通教主任がこれを行い、上記の通り、その決定などは通教主任を通して、各上位機関との連絡・調整が行われる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部学則、通信教育学務委員会規程

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

- ・日本史・東洋史・西洋史の3分野において原始・古代から近現代史まで、また地域史あるいは地域間交流、さらに政治・経済・文化といった領域など、分野・時代・地域・領域を幅広くカバーするように努めている。学生の多様な学びの志向を想定し、専任教員のみでは対応困難なものにおいては、大学および学部、学科において定められた人事上の手続きを経て、適切な兼任（非常勤）講師を採用して対応するようにし、カリキュラムと教員組織との整合性に努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学習のしおり

<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/d64a198cbd359529de4706120c4c64ff.pdf>

- ・シラバス

<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/1f6de457fca6385f3923>

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

史学科（通信教育課程）のカリキュラムは、教育目標の達成をめざして、次のように体系的な構成を取っている。新入1年生に対して、学習の進め方やレポートの書き方に関する冊子を配付して、大学生としてふさわしい学習に適應できるよう指導する。

さらに1年生・2年生には幅広い歴史の勉強が必要であり、日本史・東洋史・西洋史それぞれに各時代別に概説の授業を設ける。

2年生以降、歴史学の専門的教育に入る。専門的なテーマの講義を多数開講するとともに、学生は歴史資料学や演習科目の受講によって、専門的教育指導を受ける。

4年生は教員の指導のもと、一つの研究課題に取り組み、卒業論文を作成する。卒業論文は学生の学業の集大成として

位置づけられる。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。

A B C

- (～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。
- ・シラバスにおいて、教養科目(一般教育科目・外国語科目・保健体育科目、以上、通信教育部全体として共通であり、1・2年次生において履修する)と専門科目とを示し、専門科目では1年次において履修可能な科目と2年次以降に履修可能な科目とが明記されており、基礎的な科目と専門性の高い科目との区別を明瞭に示している。
 - ・専門科目においては、概説・概論系科目、講義系科目、特講系科目、演習系科目、実習系科目、卒業論文と、専門性に応じた段階的科目設定にすると共に、選択・選択必修・必修と3つに分類し、順次性と共に体系性が明瞭に読み取れるようにしている。
 - ・専門性の高い科目として演習をスクーリングで履修する場合には、基礎的な科目など一定の単位修得を要件とすることを示している。
 - ・最終的な卒業要件として卒業論文を定めており、科目学習の総仕上げとして位置付けている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・シラバス

<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/1f6de457fca6385f3923>

2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

A B C

- (～400字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。
- ・ディプロマ・ポリシーをふまえたカリキュラム編成と履修方式を示し、またそれに対応する教員組織を備え、適切な教育課程および教育内容を提供している。
 - ・教育課程・教育内容の適否および問題解決や改善策等について、必要があれば、毎月定例の学科会議において審議することとしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・文学部史学科

<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/history/>

・学習のしおり

<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/d64a198cbd359529de4706120c4c64ff.pdf>

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・教養課程における歴史系科目と史学科における専門科目との連携あるいは体系化が必要か否か、あるいは可能か否かについて、検討する。

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

A B C

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・年度始めに、事務から学生に対して冊子『学習のしおり』が配布され、それによって履修方法が理解できるようにしている。さらに、シラバスには各科目の学習の到達目標・科目の概要・成績評価基準・テキスト名およびその詳細・学習指導の注意点等を示している。
- ・通信教育部全体の行事として年間二回行われる学習ガイダンスにおいて、専任教員が直接学生に対し履修の手引きを行い、また学生の疑問・質問に答えている。
- ・学生の履修上の疑問に対応する事務担当者からの連絡があれば、これを通教主任が学科会議において報告する、あるいは審議を發議することとなっている。
- ・履修指導に関連する問題などを、毎月定例の学科会議において審議することとしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学習のしおり
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/d64a198cbd359529de4706120c4c64ff.pdf>
- ・シラバス
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/1f6de457fca6385f3923>
- ・単位修得について
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/credits-examination/>
- ・卒業要件について
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/requirements/>
- ・レポートについて
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/about-report/>
- ・スクーリング学習
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/schooling/>
- ・単位修得試験
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/credits-examination-location/>
- ・卒業論文について
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/graduation-thesis/>

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

- ・通信教育部全体の行事として年間二回行われる学習ガイダンスにおいて、教員が直接学生に対し学習の手引きを行い、疑問・質問に答えている。
- ・卒業論文については年間三回指導の機会を設け、二回の文書指導と一回の面接指導を行っている。
- ・学習質疑という制度を有し、学習上の問題や疑問に関する文書での質問に対し、文書での回答を、通信教育部の事務を介して、行っている。
- ・対面授業であるスクーリングや大学構内における自習に際して、学生の求めに応じて、適宜面接指導を行うこととなっている。
- ・単位修得状況が不良と判断され、在学年数が一定期間を経過した学生に対しては、履修計画書の提出指示などの改善指導を行っている。なお、学習上の不正行為など学生の本分に悖る行為に対する罰則規定は、学則あるいは不正行為処分基準において定められ、『学習のしおり』、『法政通信』において明示され、周知されている。
- ・オフィス・アワーを設け、学生の相談に応じている。
- ・通信教育部が主催する夏期・冬期両スクーリング期間中に行われる「通教生のつどい」という行事において、適宜、教員が学生の相談に応じている。
- ・学習指導に関連する問題等を、毎月定例の学科会議において審議することとしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学習ガイダンス
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/>
- ・学習のしおり
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/d64a198cbd359529de4706120c4c64ff.pdf>

3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

- ・通信教育部全体として、担当教員によって作成されたシラバスのすべてを、公開前に、学科内の専任教員が第三者チェックとして、全学統一形式をふまえたものとなっているかどうか、点検することを定めている。これまで通教主任がこれを担当して来ている。
- ・第三者チェックにおいて問題があった場合には、チェック担当者や担当教員との間を通信教育部の事務が媒介して、修正作業が行われることとしている。
- ・シラバス作成の適否および第三者チェックの結果について、あるいはシラバスチェック体制の改善策について、毎月定例の学科会議において、報告あるいは審議することとしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育学務委員会規程

②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。

- ・学科内の各専任教員は、割り当てられている複数の科目の科目担当として、それらの科目の実際の指導教員と適宜連絡を取り、毎月定例の学科会議において報告や問題提起を行うこととしており、またそれを受けて審議することとしている。
- ・通信教育部全体として、在学生アンケートを行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・在学生アンケート

<https://ceportal.hosei.ac.jp/campusweb/top.do>

<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/about-weblearning/>

3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。

A B C

【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。

- ・全学共通の成績評価基準が学生および教員に周知されている。それに基づいて、各学生の GPA および単位修得状況、さらに科目ごとの GPA 平均値を把握することができるようにしている。
- ・全学共通の制度によって成績評価に関する学生からの問い合わせを受け付け、必要があれば、学科において審議し、あるいは文学部教授会の議をも経て、当該学生に結果を伝達する仕組みとしている。
- ・学科内の各専任教員は、割り当てられている複数の科目の科目担当として、それらの科目の実際の指導教員と適宜連絡を取り、毎月定例の学科会議において報告や問題提起を行うこととしており、またそれに基づいて審議することとしている。
- ・通教主任は、通信教育部事務局と連絡を取り、問題が発生すれば、直ちに学科会議に諮ることとしている。
- ・卒業に際しては、該当学生全員の単位修得および成績の状況を示す資料を通信教育部事務局より受け取り、それを専任教員全員が点検することとしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし（学科会議資料）

②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

他大学における既修得単位数の認定については、通信教育部事務局から通教主任を介して配布された関係資料を、学科会議において、通信教育部の規定および学科のカリキュラムに照らして、点検・確認することとしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・編入学生の単位認定

<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/admission/accreditations/>

<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/admission/outline/regular.html#cont02>

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※ (1) ~ (2) の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】

史学科（通信教育課程）における教育は、学生が卒業するまでに以下のような見識・能力を修得していることを目標とする。

1. 国際的な視野と、政治・経済・社会・文化などにわたる幅広い歴史知識を得ることによって、現代社会の問題を見る眼を養い、未来を展望する見識。
2. 史料の批判的考察から体系的理解に至る歴史学の分析方法を習得して思考力・判断力を培い、自主的・自立的に問題を発見・追究・検証する能力。
3. 通信学習による試験、レポート執筆、スクーリングによる対面授業、卒業論文指導等の訓練を通して、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解するコミュニケーション能力。
4. 文化遺産の調査・保存を啓発し、また、次世代の教育に歴史学の成果を生かすことのできる能力。

4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果を測定していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>(~400字程度まで) ※取り組みの概要を記入 (習熟度達成テストや各種アンケートの活用状況等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学習の状況および成績 (レポートや単位修得試験の成績評価を含む) については、割り当てられた複数の科目の担当として各専任教員が、適宜、実際の指導を担当する教員と連絡をとり、学科会議において報告、問題提起等を行うこととしている。 ・卒業論文については、卒業論文の面接試験が終わったのち、その状況・結果について、学会会議で報告することとしている。 ・卒業資格者と卒業者の人数把握については、通信教育部事務局より通教主任を介して配布される資料を、学科会議において点検、確認することとなっている。 ・退学、除籍については、通信教育部事務局より通教主任を介して配布された資料を、学科会議において点検・確認し、さらに文学部教授会において報告することとしている。その上で、学習奨励策などについて、毎月定例の学科会議において審議することとしている。 	

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・文学部教授会資料

②成績分布、進級などの状況を学部 (学科) 単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
------------------------------------	---

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。

- ・全科目におけるレポート、スクーリング、さらに単位修得試験の成績分布について、学科として定期的に把握することはない。しかし、必要があれば、通信教育部事務局から関係資料を受け取り、それによって点検し把握できるようにしている。また、年度始めにおいて、成績評価における正規分布が望ましいという認識を教員間で共有するようにしている。
- ・進級については、年度末の卒業判定の際に、通信教育部事務局より通教主任を介して配布された資料によって、その状況を点検・確認し、把握できるようにしている。
- ・卒業生の成績については、学科会議および文学部教授会における卒業資格審査の際に、通信教育部事務局より通教主任を介して配布された資料によって点検・確認し、把握することとしている。
- ・成績不良あるいは履修不良により一定年数を超えて在学する学生については、通信教育部事務局より配布された資料によって学科会議においてこれを把握し、当該学生に学習計画書を提出させるという措置を講じている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部学則

・通信教育学務委員会規程

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】

史学科（通信教育課程）の入学受入れ方針は、その教育理念・目標に基づき、多様な資質・能力の可能性をもった学生の入学に期待をかけており、そのうえで歴史的な思考方法の習得を目指す意志のある者を通信教育課程の入学受入れとして認めている。また、編入学・転入学も認めており、さまざまな経路から学生を集めているが、それは学生相互に良い影響を及ぼしており、今後もこの方針を継続する予定である。

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

・入学定員の未充足状況について、また中途退学・除籍の問題については、社会人学生や生涯学習志向の中高年の学生が多いという通信教育部の特性から考えると、経済状況など社会のさまざまな影響が考えられ、学科としての努力にも限界があるという見方もある。しかし、教職員一体となって広報活動に努めている。たとえば、入学説明会における教員による講演や模擬授業を通じた魅力のアピール、広報媒体を通じた生涯学習の意義、在宅あるいは学内での自習の利便性のアピール、週末や連休を利用した連続三日間のスクーリングにおいて一科目・一学期分の単位修得ができるという魅力のアピール、さらに卒業生の大学に対するメッセージのアピールなどの施策を取っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・『法政通信』

5.2 学生募集および入学受入れは、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的な検証を行っているか。

①学生募集および入学受入れの結果について検証していますか。

A B C

【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。

・年度内に七回行われる通読判定と称される入学志願書の審査による合否判定作業は、専任教員が毎回持ち回りでこれを行い、そのつど判定結果・講評を学科会議において行うこととしている。その上で、問題や改善策等についても適宜審議することとしている。

・学務委員会における通信教育部全体の関係資料を学科において閲覧し、情報共有するようにしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・通信教育学務委員会資料

(2) 特記事項 (任意項目)

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について簡条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部(学科)単位で把握していますか。	はい いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※簡条書きで記入。</p> <p>・卒業・卒業保留・留年者・休・退学者の状況については、年度末あるいは毎月の文学部教授会において、通信教育部事務部より通教主任を介して配布された資料によって点検、確認、承認の報告を行うこととしている。その前に、その書類を学科会議において点検、確認の作業と承認の決定を行うこととしている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・文学部教授会資料</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、簡条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について簡条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム(質保証委員会等)を適切に機能させているか。	
①質保証に関する活動は適切に行われていますか。	はい いいえ
<p>【2015年度の質保証に関する活動概要】※簡条書きで記入。</p> <p>・文学部の質保証委員会および全学の質保証委員会において、学科承認を経た自己点検・評価関係資料を検証することとしており、その改善意見については、これを学科に通知し、それを受けて学科会議では対応策を審議、決定することとしている。この方式に問題や改善策があれば、学科会議、文学部教授会において発議、審議することができる。そして、これが毎年繰り返される。これにより、質保証に関する活動は適切に行われていると判断する。</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

【大学評価総評】

※文学部通信教育課程全体の大学評価総評を参照

文学部地理学科通信教育課程

I 2015 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

文学部通信教育課程 3 学科が各々、それなりの工夫をしながら通信教育課程での教育に取り組んでいることは、伝わってくる。そうした中、魅力的な学科として広報用リーフレットやホームページなどを活用して、学外に発信しようとしている日本文学科の試みはとりわけ評価できるところである。通信教育課程全体としての減少傾向に対して、それぞれの特色を生かした通信教育のあり方について、さらなる検討が望まれる。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

通信教育課程の学生数減少という構造的問題に対して、学科として対応可能なことは、カリキュラムをさらに検討し、それを学科ホームページ等で内外に公開すること等に限定される。学生のニーズを把握することに努めるとともに、現行カリキュラムの問題点を再検討して、カリキュラムの一層の充実をはかっていく。学外への発信方法の検討は今後の課題である。通信制教育を実施している大学において、地理学科は本学以外に存在しないことを再発信する方法も、事務局と共に再検討しなければならない。

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※箇条書きで記入。

- ・文学部通信教育課程全体のシートを参照。
- ・文学部としては、通信教育課程を有する日本文学科、史学科、地理学科の 3 学科は通信教育課程主任（以下、通教主任）を置き、通信教育部の学務委員会において通信教育課程全般にわたる事項を審議し、各学科と文学部執行部との連絡・調整にあたっている。文学部執行部による通教関連学科会議、拡大教学改革委員会にも出席し、審議に加わっている。
- ・文学部教授会では通教関連の審議事項について、3 学科の代表者が発議・説明・報告等行っている。通教各学科の発議・説明・報告等は各通教主任が行っている。各通教主任は通教事務部との連絡、各学科との連絡・調整も行っている。
- ・地理学科内においては、通教主任が通信教育課程の教育に関わる発議、説明・報告等行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部学則、通信教育学務委員会規程
- ・地理学科役割分担表

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。総合科目としての地理学の領域を担当できるよう、自然地理学、人文地理学それぞれの専門分野のバランスに留意した教員組織になっており、また優秀な人材を内外から兼担・兼任教員として確保している。したがってカリキュラムに則つ

た教員組織が整備されている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・『学習のしおり』、『通信学習シラバス・設題総覧』

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

大学、通信教育学部が掲げる編成方針に加え、地理学科独自の編成として「概論」関連の科目を通して、大学で学ぶ地理学の基礎を理解し、地理学への興味関心を育成する。

自然地理学（地形、生物・土壌、気候、海洋・陸水など）、人文地理学（経済、文化、都市、農業など）、地誌（日本、世界各地）など多彩な科目群を総合的に学ぶことで地理学の方法論を習得する。

地図関連科目群によって地図や測量の基礎を学ぶとともに、現地研究というフィールドワークを通じて地理学的調査を実践する。

演習を通じて地理学的地域調査の具体例を学び、自らの研究対象の策定とそのまとめとしての卒業論文の作成により地理学士としての集大成を行う。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。

A B C

(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。
教養科目と専門科目をシラバスで示し、1年次で履修可能な専門科目、2年次以降履修可能な専門科目とを明示している。専門科目においては自然地理学、人文地理学、地誌学の科目群を、必修・必修選択・選択の区分の中で配置している。スクーリングによる授業科目も適切に配置している。必修科目の「自然地理学概論(1)」、「人文地理学概論(1)」、「地理調査法(自然編)」、「地理調査法(人文編)」は通学課程の「地理学概論」、「地理実習」に対応するものであり、1年次から配置している。それらを踏まえて各講義・演習科目によって各分野の知識を幅広く習得し、それらを現場で体得するフィールドワーク、すなわち「現地研究」などを通して現場感覚を養う。それらを踏まえて、最終的に卒業論文に結実するよう各科目を配置している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・『学習のしおり』、『通信学習シラバス・設題総覧』

2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

地理学科のカリキュラム体系は通学課程のそれとほぼ同様である。生涯学習を主たる目的とする学生にも、また測量士補資格、中学校社会科及び高等学校地理歴史科・同公民科の教員免許等の資格取得をめざす学生にも配慮した科目配置となっている。なお2013年度からはカリキュラム改革を実施し、科目の学年配当変更、必修選択の設定等を行い、新たな学

生ニーズに対応する教育内容を提供している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・『学習のしおり』

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（１）～（２）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・学生の新たなニーズに対応するためのカリキュラムの見直しを行う。

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

A B C

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・履修指導、科目の概要については、通信教育部ホームページ、通信教育部の『学習のしおり』、『通信学習シラバス・設題総覧』、『法政通信』等の配布物で明示し、履修指導を行っている。
- ・スクーリングの各科目概要や到達目標、成績評価基準については『法政通信』『スクーリングシラバス』で明示している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部ホームページ <http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/>
- ・『学習のしおり』、『通信学習シラバス・設題総覧』、『スクーリングシラバス』
- ・『法政通信』

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

通信学習における疑問点は「学習質疑」制度によって対応している。2013年度からは通信教育部全体で年2回実施する「学習ガイダンス」に通教主任が出席し、疑問・質問に答えることを通して、新入学者・編入学者に対する学習の動機づけを行うようになった。またスクーリングは市ヶ谷キャンパスにおいて春・夏・秋・冬各期に実施し、地方スクーリングも実施している。対面授業によるスクーリング時においては、受講生からの直接の質問にも対応しており、その効果は大きい。「現地研究」においては2泊3日の行程で現場を歩くため、参加学生との質疑応答の機会が多い。さらに卒業論文作成においては一般指導、1次指導（文書指導）、2次指導（個別面談指導）、3次指導（文書指導）を実施し、段階をおった指導を実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部ホームページ <http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/>

3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

- ・学科内の教員の中でシラバスチェック委員を置き、チェックの結果により各教員に修正を求めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・シラバスと講義内容との乖離は想定されていないが、スクーリングの際、履修者に対してアンケートを実施している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・卒業論文の成績評価は、地理学の教員全員で確認し、単位認定の適切性を確認している。 ・卒業に際しては、学生の単位修得、成績状況に関する資料を事務部から受け、地理学科の教員全員がそれを点検・確認している。 ・受講生からの成績確認申請があった場合は、通教主任が窓口となって学科で議論し、対応している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。 他大学における既修得単位の認定は、入学選考に当たる通信教育課程主任ならびに通読判定委員により、通信教育全体の基準に則して精査され、その上で学科会議において承認されている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・シラバスに則った授業が実施されているか否か確認する他の方法を検討する。

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】 上記の教育目標にもとづき、以下の3点の視覚や能力を育成する。 1. 「地域」を単位とした分析視覚を養う。2. 習得した文化・歴史的、社会・経済的、自然・環境的諸問題に関わる分析手法を踏まえて、具体的に調査・研究する能力を身につける。3. それらの上に、自然環境そのものと、その上に生じる地域問題を具体的に分析する能力を身につける。 地理学科のカリキュラムはこれらの能力を育成するために編成されており、本学科の所定の単位を修得したとき、「学士」の学位が授与される。	
4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
①学生の学習成果を測定していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
（～400字程度まで）※取り組みの概要を記入（習熟度達成テストや各種アンケートの活用状況等）。 学習の最終成果としての卒業論文作成にあたり、内容の一層の充実をはかるため文書・面接指導を実施している。2012年度からは新たに文書による3次指導を全員に課し、指導の充実をはかった。提出された卒業論文に対しては、主担当教	

員の評価を基本としながらも、公平を期すため複数の教員による面接試問を経て、地理学の教員全員の合議によって最終的に成績評価されている。その結果は、最終的には教授会に諮られる。提出された卒業論文の質を高め、優秀論文が数多く提出されることこそが学習成果の測定に該当するものであり、卒業論文の成績は、地理学の全教員によって確認されている。また優秀論文執筆学生には、例年3月に開催される全国地理学専攻学生「卒業論文発表大会」（日本地理教育学会主催）において、法政大学地理学科通信教育課程学生代表として発表するよう指導している。レベルの高い卒業論文である旨、他大学の教員から評価されることも多い。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

・進級・留級等のデータについては通信教育部事務からの報告を受けて学科内で確認している。
・成績分布の実態は把握できていない。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・成績分布の実態を把握する。

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】

地理学科はその目的にもとづき教育目標を達成するため、地理学に興味を持つ多様な可能性を持つ学生を受け入れている。そのため入学希望者には、地理学関連の書籍を読み論評する志願書を課している。それを複数の教員で審査し入学選考を行っている。多様な可能性を持つ入学志願者は、その入学経路もまた多様である。多様な可能性を持つ学生を広く受け入れるという方針は今後も継続していく。

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

新規入学者数、在籍者数は長期にわたって減少傾向にある。地理学科単独での対応には限界があるが、通信教育部全体の対策とともに学科としての対応も検討していく。現行カリキュラムの問題点を再検討してカリキュラムの一層の充実をはかり、それを学外へ発信するよう今後とも試みていく。通信制教育の実施大学において、地理学科は本学以外に存在しないことを再発信する方法もまた、事務部とともに再検討する必要がある。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的な検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。

A B C

【検証体制および検証方法】 ※簡条書きで記入。

- ・入学志望書を通信教育主任と通読判定委員が通読し、能力と意欲があるか否か判定している。
- ・判定結果を学科で検証している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 特記事項 (任意項目)

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、簡条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について簡条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・通信制教育の実施大学において、地理学科は本学のみであることを再発信する方法を検討する。

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※簡条書きで記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・学科会議、教授会を経て厳密に卒業判定されている。 ・卒業生、卒業保留者、退学者については、事務による集計を受けて、学科として把握し、教授会に報告している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・文学部教授会資料	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、簡条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について簡条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証に関する活動は適切に行われていますか。

はい いいえ

【2015年度の質保証に関する活動概要】※箇条書きで記入。

- ・地理学科会議は、文学部教授会、通信教育学務委員会、さらに大学評価室と連携して、内部質保証システムの一つとして機能している。各学科から選出される質保証委員によって構成され、定期的に行われている質保証委員会での議論は、学科会議の際に報告されている。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照

【大学評価総評】

※文学部通信教育課程全体の大学評価総評を参照